

研究紹介 Rhif 8

Bob Morris Jones (1993)

'The definite article and specific reference'. *Studia Celtica* 26/27: 175-201.

小池 剛史

カムライグ語の定冠詞 *yr* (*yr / y / 'r*)を伴う名詞句には、総称指示 (generic reference : 研究紹介 7 の例文 (4) の用法) と特定指示 (specific reference : 研究紹介 7 の例文 (3) の用法) とがある。特定指示には、定 (definite) と不定 (indefinite) の対立があり、定冠詞付き名詞句は、定を表わすというのが定説である。B. M. Jones (1993) の論文では、「定」の概念を意味論的、語用論的な立場から定義し、カムライグ語の定冠詞の特定指示用法の多様性を説明している。

「定」という概念は次のように説明されている: 「定」名詞句 (たとえば定冠詞を伴った名詞句) は、その名詞が指す「類」の中のある「例」を指示し、さらにその指示対象が話し手・聞き手 (書き言葉では書き手・読み手: 以下「話し手・聞き手」とのみ述べる) によって共通認識されているものであることを示している。例えば、*y bachgen* 「その少年」が指す対象は、*bachgen* という名詞が指し得るすべての「少年」からは区別されており、しかも話し手・聞き手が、「どの少年」が話題になっているのかを了解している場合である。それは、話し手・聞き手が発話時点で共有している情報 (旧情報 *old/given information*) の中に、その少年が含まれているためである。そのような情報には大きく二つの場合が考えられる。(1) 言語内情報: 話し手・聞き手の発話の中にその指示対象が含まれている場合 (例えば既に言及されている場合); (2) 言語外情報: 発話の中には含まれていないが、その発話が行われている状況から、指示対象が何であるかが話し手・聞き手にとって十分明らかな場合、である。以下、言語外情報、言語内情報の順でそれぞれの場合について略述する。

言語外情報による場合 (a) 話し手・聞き手が属する小集団 (例: 家族、友達関係など) にのみ共有されている情報による場合 (例: *Wyt ti wedy bwydo'r gath?* 「猫に餌やった?」(家族同士の会話で) (b) 更に大きな集団 (地域、国、世界全体) に共有される情報による場合 (例: *Ydych chi wedi ymweld a'r castell?* 「もうお城には行きましたか」(城のある観光地で); *Ddylai'r prif weinidog ddim ymddeol.* 「首相は辞任すべきではない」(同じ国の国民同士の、特に自分の国についての会話で); *Mae'r pab yn dod o'r Almaen.* 「法王はドイツ出身だ」(現代では同時代に世界に一人しか存在しない)。(c) 話し手あるいは聞き手の体の部分に言及する時 (例: *Sut mae'r coes?* 「脚の調子はどうですか?」(所有代名詞を用いて *Sut mae'ch coes?* 「(あなたの) 脚の調子はどうですか?」

とも言う。三人称の体の部分に言及する場合には所有代名詞を用いる(例: Mae Siôn yn cynhesu'i dd'yllo. 「ショーンは(自分の)手を温めている」)。(d) 発話の場面に存在する(話し手・聞き手の目の前にある)場合(例: mae'r rhosodyn hardd iawn. 「バラがとてもきれいですね。」(庭園で)。

(d) のような場合、例え指示対象が目の前にあっても、話し手が聞き手の注意をそれに初めて向けるような場合には、無冠詞である(例: 'drychwch, awyren! 「見てごらん、飛行機だよ!」。もうその対象が認識されている場合に、定冠詞付き名詞句を用いる(例: (聞き手が飛行機が飛んでいる空を眺めている時) 'drychwch ar yr awyren. 「飛行機を見てごらん」)。指示対象を話し手が指差している場合には、更に指示詞を伴うこともある(例: 'drychwch ar yr awyren 'cw. 「あの飛行機を見てごらん」)。従って、定冠詞の有無を決定するのは、指示対象が目の前にあるかどうかではなく、それが話し手聞き手にとって旧情報であるか否かの問題なのである。

言語内情報による場合 (a) 前方照応(anaphora)の場合(指示対象が既に言及されている場合) (a1) 直接的言及(例: dalodd y dyn benfres ac octopws, ond dihangodd yr octopws. 「その男はタラとタコを釣ったが、タコは逃げた。」) (a2) 間接的言及(例: gesh i nofel yn bresent ond doedd y stori ddim yn dda. 「小説をプレゼントに貰ったが、話は良くなかった。」(「話し」(y stori)は言及されていないが nofel 「小説」には「話し」があることが前提である)。(b) 形容詞や前置詞句などの修飾語を伴う場合で、指示対象が一つしかないことを示唆する修飾語の時(例: mae'r unig fab yn gadael y cartref. 「たった一人の息子が家を出て行く」; mae'r prif syniad yn dda. 「主な考え方は良い」)。(c) 属格名詞を伴っている場合。但しこの場合には定冠詞は伴わない(例: mae car Sion wedi'i ddwyn. 「ショーンの車は盗まれてしまった。」)

定冠詞、また無冠詞の用法は、語彙(lexis)によってある程度規則的に決まっている場合がある。

定冠詞を用いる場合 (a) 頻繁に訪れる場所など(rwy'n mynd i'r gwely. 「私は寢床へ行きます(=私は寝ます)」) (b) 河川名(英語の影響とも言われる) Yr Ystwyth 「アストウイス川」; (c) 尺度(例: deng milltir yr awr 「一時間10マイル」)

不定冠詞を用いる場合 (a) 食事・スポーツ(例: dw i'n gadael ar ôl cinio. 「昼食後には発ちます」; dw i'n chwarae pêl-droed. 「私はサッカーをします」)。(b) 人名・日、月の名称(例: mis Mai 「5月」; nos Wener 「金曜日の夜」)

また、同じ種類の語でも定冠詞を用いたり不定冠詞を用いたりする場合がある。例えば病名で brech 「痘」 clefyd 「病」を含め病名は定冠詞を伴うが、cur

「痛み」tost「痛い」を含む語や、一語から成る病名は無冠詞である（例：y frech wen「天然痘」；y clefyd melyn「黄疸」；cur pen「頭痛」；gwddw tost「喉の痛み」；annwyd「熱」；cancr「癌」）。

定冠詞の用法は、指示対象が話し手・聞き手に知られているかどうかという意味論的・語用論的な規定が出来る一方、後半で見たように、語彙によって、個々の用法を記述しなければならない場合もある。